

「死んだ方がましと絶望感を抱くような脳脊髄液減少症の疑いのある症状がZENメソッドやQX-SCIOのセラピーにより改善したケース」

ホメオパシーセンター福岡青葉 リアンリーフ .  
ホメオパス 安藤久美子

©2024 JPHMA & Kumiko Ando

## 【主訴 症状】

60代 女性 助産師 夫 娘3人

2023年10月に体操を行ったところ、背中を負傷し、その後硬膜に穴があいている感覚がし、脊髄液が漏れている症状があり、夜眠れない。体がだるい、少し動いただけで激しい倦怠感、微熱が続く。拍動する頭痛や背中灼熱感がある。仕事に行けない。また、手の震えや力が入らず、よくつまずくため受診したところパーキンソン病と診断され、ドーパミンを服用している。娘の結婚式を控えており、元気になって式に参列したい。

## 【タイムライン】

出産時 吸引分娩、麻痺のない二分脊椎症、骨の低形成

3歳 自家中毒 大腿部に大量の皮下注射で歩けなくなる

小学生 兄の蹴った空き缶が足に当たり10針縫合

兄と尻揚げをしていたら十匹くらいの野良犬に  
追いかけられた

兄から布団に簀巻きにされ息が出来ず死にそうになった  
父母は私を可愛がっていたため兄に憎まれていて  
暴力を振るわれていた

## 【タイムライン】

23歳 祖母の死

29歳 扁桃腺摘出

40歳 交通事故 自転車でタクシーにぶつかり  
足腰の打撲

50歳 父親の死

55歳 母親の死

現在は助産師育成の指導者として仕事をしている

## 【脳脊髄液漏出症とは】

「脳脊髄液腔から脳脊髄液（髄液）が持続的ないし断続的に漏出することにより減少し、頭痛、頸部痛、めまい、耳鳴、倦怠感などさまざまな症状を呈する疾患である」

と定義されています（脳脊髄液漏出症診療指針 2019年出版）。

本学会は脳脊髄液漏出を中心に、低髄液圧、髄液産生低下・吸収亢進・動態異常などを含む脳脊髄液減少病態についての臨床と研究を行ってまいります。本疾患は起立性頭痛を主症状とする症例が多いものの、その他の多彩な症状・病状を経験する中で、単に髄液に関わる問題だけではなく、おそらく神経系の様々な領域が関与する病態であると考えております。

一般社団法人 日本脳脊髄液漏出症学会ホームページより

©2024 JPHMA & Kumiko Ando

# 【手法とレメディー選択】

・ 1回目 2023年11月

症状よりTBR The Bonnghausen Repertory にてレメディーを選択

- 1： # 6 8 4 体温調節 熱さ 単一部分
- 2： # 2 5 2 部位 胴 背中 腰仙骨部
- 3： # 1 2 1 4 骨全般 焼けるような痛み 灼熱感
- 4： # 1 9 7 9 基調 損傷 (外傷・落下・転倒・殴打・強打、など)
- 5： # 7 8 9 精神—絶望 (失望、落胆)
- 6： # 2 1 8 3 伸ばす (および広げる) 体を (伸びをする) ことから
- 7： # 1 1 5 8 全般 弱さ (無力症、無気力、衰弱)  
だるさ (疲労や飽き・退屈)

## 【手法とレメディー選択】

・1回目 2023年11月

候補レメディー

Sulf. Rhus. Puls. Ruta. Phos. Bry. Lyc

随時 MT)サポート 損傷

+Fudo-bisya-w30C (他者は自分に対して優しくしてくれない思い  
相手のことをよく思えるように変わる)

昼 Syph 30C+Med 30C 週1回 1粒  
怪我の傾向や炎症になりやすい体質から

朝・夜 Rhus-t LM2 (TBRより)

## 【1回目結果】

出勤できるようになり、周りからは元気になったと言われる。  
実際疲れにくくなってきている。

倦怠感 10→5

背中 of 熱さ 10→5

不眠 10→3

頭痛 10→0

発熱 37度台→36度台 一時的に38、5度

このまま治らないのではないかとか、絶望感は無くなった。

食欲があまり無く、体重が減ってきている

背中の灼熱感はまだ残っている。

寝ている間、首から下と腰から上に寝汗をかく



・ 2回目 2023年12月

1回目のレメディーで大きな改善が見られたため、  
主要なレメディーはそのまま継続

随時 MT)サポート 損傷

昼 Syph 30C+Med 30C 週1回 1粒

朝・夜 Rhus-t LM 3

夜 MT)アヴィナサティエバ 食欲が落ちてきて体重が減ったため

## 【2回目結果】

倦怠感 10→0

背中の熱さ 10→1

不眠 10→0

頭痛 10→0

発熱 37度前半→36度台 昼間は体温は安定している

食欲が少しずつ戻り、2キロ増量した。

背中の熱さはほとんど無くなったが、ごくたまに感じる。

脈が時々飛ぶ。

パーキンソン病の症状として立っている際に平衡感覚がなくなることがある。

3月に娘の結婚式を控え、リモートの参加も考えていたが、

実際に参加できる見通しが付き、前向きな気持ちになる。

・ 3回目 2024年2月

引き続き、体調は良くなっているが、  
背中にときどき熱さを感じていることから  
脳脊髄液の停滞を改善させ、免疫力を高めるために、  
クエカスのマザーチンクチャーを使用。  
メインのレメディーはそのまま継続する。

随時 MT)クエカス+Kuman—ho—w 30C

プラーナを整えるため

昼 Syph 30C+Med 30C 週1回 1粒

朝・夜 Rhus-t LM3

## 【3回目結果】

脳脊髄液減少症を疑う症状は、全く無くなり、仕事にも復帰  
パーキンソン病のリハビリのためにもウォーキングを続ける。  
何より娘の結婚式に参列できたことが大きな喜びであった。



## 【考察】

脳脊髄液減少症とは、脳脊髄液腔から脳脊髄液（髄液）が持続的、断続的に硬膜外に漏出し失われることによって髄液が減少し、起立時に脳が下方へ牽引され、頭痛（起立時）を主症状として、その他、頸部痛、めまい、耳鳴り、倦怠感などさまざまな症状を呈する病態である。近年、俳優の米倉涼子さんは5年にわたってこの症状と格闘したと明かされている。米倉さんは「まっすぐ歩けない、立ち上がれない。」と語り、一時は引退も覚悟した。現時点ではその発症機序や原因には不明な点が多く、確実にこの病態を診断する方法はないそうである。

## 【考察】

ホメオパシーのレメディーやマザーチンクチャーをとり、また毎週のQX-SCIOにセラピーから、順調に回復していった。一時期は起きてられなく治らないのではないかという絶望感があり、半年後に控えた娘の結婚式にも出られないのではという不安や焦りもあったが、仕事にも復帰し、目標であった娘の結婚式にも元気に参列することができた。難病と言われる脳脊髄液減少症を強く疑ったケースであるが、ホメオパシーのレメディーやQX-SCIOのセラピーで、元通りの生活が早い経過でできるようになった。

今後の展開としては、パーキンソン病の発症で、薬物にてコントロールしている背景があり、薬物を少しでも減らしていきたいというクライアントの強い要望に添えるように、ホメオパシーや更なるインナーチャイルド癒しを続ける予定である。

ご清聴ありがとうございました

相談会を受け付けております。  
お申し込みはこちらからお願いいたします。  
ホメオパシーセンター福岡青葉 リアンリーフ  
安藤久美子

<https://reanleaf.com/>



©2024 JPHMA & Kumiko Ando